

# 御所湖随想

H22年10月 No.14

## 季節の移ろい

春から、夏にかけ、新緑から深緑へと移り変わる葉の変わり様は生命のバイタリティを感じる。しかし、秋になるとその緑がくすみ、寒さを迎えるとどうだろう、葉の色は、黄や紅、朱に変わり最後の力を振り絞るように華やかになる。そして、静かに落葉していく。

葉は、植物にとって命を紡ぐ栄養を造る大事な役割を持っている。しかし、寒さが厳しく、水が凍るようになると葉は、活動できなくなり、葉を落とす。その時、葉に残された栄養分が葉を落とす過程の中で様々な変化をして、葉の色を作りだしている。決して日焼けして赤くなったのではない。ちなみに日焼けすると葉は、白くなるものが多い。



ユリノキ



ウワミズザクラ

今年は、夏の猛暑、秋の残暑と暑さが続いたが、10月になっても暖かい日が続いている。そのためか、紅葉の見頃が例年より遅くなっている。やがて、紅葉した葉は褐色に変わり落葉していくのだが、紅葉の期間がいつもより長いようだ。暖かさときれいな華やかさが長く続くことはうれしいのだが、急な寒さがくるという予報もあり、気楽に喜んでもいられない。

先日、公園内を歩いていたら、ひょいと顔を出し、目が合った動物がいた。ほんの数秒ではあったが、姿を捉えることができた。イタチである。イタチの姿を見ることはあまりないかもしれないが、畑などで2列に並んだ足跡をみたことはないだろうか。2列に並ぶ足跡はイタチの仲間。大きい順に挙げるとテン、イタチ、オコジョ、イイズナとなり、ペットショップで売



イタチ

られているフェレットもこの仲間。民家の近くではイタチが多い。イタチの大きさは体長40cm程度、頭の幅は5cmぐらい。頭が入る所ならどこでも潜り込んでいく。鶏小屋の網をくぐるのも朝飯前(朝食前に鶏小屋に入るという意味ではない。イヤ、朝食なのか?)。一旦、小屋に入ると全部殺してしまうという、鶏の飼い主にとっては頭の痛い獣です。この肉食獣も実は、植物の恩恵に与っています。まず、隠れ蓑として、そして間接的ですが、ネズミなど雑食性小動物や鳥を餌とすることによって。(生態系の一員として)